



## 諏訪湖の過去 2 万 5 千年間の環境変遷が明らかに

長野県環境保全研究所は、信州大学との共同研究により、諏訪湖の湖岸においてボーリング調査を実施し、採取したコア（地層から抜き取った堆積物）から、過去 2 万 5 千年間の堆積環境と諏訪湖の水域の変遷を解明しました。

本成果は、2023 年 2 月 9 日付で学術誌「*Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*」にオンライン掲載されました。

掲載論文（英文要旨）の URL : <https://doi.org/10.1016/j.palaeo.2023.111439>

### 【研究の概要】

- 諏訪湖の湖岸において 30m の連続コアを採取し、過去 2 万 5 千年間（最終氷期以降）の堆積環境と諏訪湖の水域の変遷を追跡しました。
- 諏訪湖の面積は、最終氷期最盛期（更新世後期）において現在よりも小さく、1 万 6 千年前（最終氷期末）～6 千年前（間氷期、完新世中期）に現在よりも拡大したことが明らかになりました。
- 以上の環境変遷は、流域の土壌・植生遷移によって、諏訪盆地への土砂供給量が増加したことに主に起因すると考えられ、これは氷期-間氷期サイクルと同調して生じた可能性が示唆されます。

### 【研究成果の意義】

- 諏訪盆地の堆積物をはじめて堆積学的観点から解析した研究です。
- 内陸盆地における千～万年スケールの堆積・侵食・運搬プロセスを理解する上で重要な知見となります。
- 過去～将来における諏訪湖の環境を考える上で、湖内だけでなく流域の環境による影響を検討することの重要性を示しています。



（上図）諏訪湖の湖岸でのボーリング調査の様子

（左図）掘削されたコアの一部

本研究の一部は、（公財）アサヒグループ学術振興財団、（公財）河川財団、（公財）住友財団、および日本学術振興会の支援を受けて実施しました。



【長野県は「SDGs 未来都市」です】

SDGs（持続可能な開発目標）は、美しく、誰もが安心して暮らし続けられる社会をめざし、世界みんなで取り組む目標です



環境保全研究所 自然環境部（飯綱庁舎）  
（次長）坂爪 敏紀（担当）葉田野 希  
TEL 026-239-1031（代表）  
FAX 026-239-2929  
E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

環境部 環境政策課 企画経理係  
（課長）小林 弘一（担当）高橋 晴彦  
TEL 026-235-7169（直通）  
FAX 026-235-7491  
E-mail kankyo@pref.nagano.lg.jp